



これからまちづくりが行われる被災地がフィールド。だから絵空事じゃない。

自分が住みたいまちを考えるワークショップ

～誰にも“居場所と出番”がある、まちのモデルについて～

- 日時: 2014年3月7日(金)19時～22時 * 開場18:45
- 場所: アミタホールディングス株式会社 東京本店
(東京都千代田区九段北三丁目2番4号) * 市ヶ谷駅より徒歩5分
- 主催: 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
- 協賛: NEC
- 協力: アミタホールディングス株式会社
- 募集: 30名程度
- 参加費: (会員)無料、(非会員)500円 * 軽食をご用意しています!

ホスト



熊野英介さん

アミタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長
ソーシャルビジネス・ネットワーク副代表理事

1956年兵庫県出身。アミタホールディングス株式会社代表取締役会長兼社長。「持続可能社会の実現」を掲げ、他社に先駆け再資源化事業を開始。総合環境ソリューション企業として事業領域を拡大している。その活動は、企業の廃棄物処理の計画・運用から、環境コンサルティング、循環社会モデル事業、環境教育事業まで多岐にわたる。

ファシリテーター



服部直子
ソーシャル
ビジネス・
ネットワーク
事務局/
フェロー

ゲストスピーカー



河野通洋さん
株式会社八木澤商店
代表取締役

1973年陸前高田市生まれ。レッドロックスコミュニティカレッジ卒業。醸造蔵・八木澤商店九代目。食の安全性やおいしさの追求と同時に、地域の活性化や地場産業の育成に力を注いでいる。東日本大震災により社屋、製造工場、自宅が全壊・流失。内陸部に拠点を移し再建に奔走。本社は2012年7月より陸前高田矢作地区に再移転。



成澤 俊輔さん
株式会社ISFnet/ハーモニー
広報戦略部長兼
NPO法人FDA理事

1985年佐賀県生まれ。先天的難病の網膜色素変性症により、20代前半で視力を失う。日本でたった一人の障がい者雇用分野の当事者・福祉の専門家・経営者であるという3つの立場を生かしつつ、社会福祉主事の資格を保有し、障がい者雇用支援事業に従事。社会全体への啓発活動として、自身の体験や業界への問題提起をテーマとし、年間100以上の講演や研修を行う。



前田有香さん
立教大学大学院
文学研究科教育学専攻
博士課程前期課程

1987年生まれ、神奈川県出身。2009年大学卒業後、神奈川県立特別支援学校に着任。3年間の教員生活を経て、立教大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程在籍中。専門領域は教育哲学・障害者福祉・ケアパブリティープローチ。NPO法人施無畏:こころのバリアフリーマガジン『Co-Co Life女子部』スタッフ。NPO法人STAND研究員NPO法人こども哲学・おとな哲学「アーダコーダ」理事(設立申請中)



海津歩さん
株式会社スワン
代表取締役社長
ソーシャルビジネス・ネットワーク
常務理事

1960年東京都生まれ。1985年、アルバイトからヤマト運輸に入社。世田谷の営業所に所長として就任した当時から、様々なアイデアを実行し、業績を上げる。以来、各地の営業所長、支店長を歴任。宅急便の業務改革に取り組む。2005年「スワンペーカー」を経営する株式会社スワンを、小倉会長亡きあとに引き継ぎ、代表取締役社長に就任。



ワークショップの展開

19時～22時 * 軽食を取りながら、くつろぎながらのワークショップです

第3回

(生き方・働き方を変える大学東京ゼミ)

このワークショップで目指すこと

- 津波で市街地が全て流されてしまった岩手県陸前高田市では、戸羽太市長が「子どもや高齢者、障がいのある方など、すべての市民が暮らしやすいまち、そして子育てがしやすく、来訪者が笑顔で過ごせる『ノーマライゼーション』という言葉のいらない、世界の人々に誇れる美しいまち、住む人たちの心が美しいと言われるような、新しい陸前高田市」という目標を掲げ、市民が主体となるまちづくりが進められています。
- また、ソーシャルビジネスの経済団体である一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークは、震災後、ご縁のあった陸前高田市で、40社のソーシャルビジネスの創業支援を行い、「信頼資本、人間関係資本など様々な社会資本が地産地消で循環し、さらにそれが生きがいにつながっていく地域モデル～ソーシャルビジネス・タウンモデル～」の実現に向けて、支援を行っています。
- このワークショップでは、陸前高田市を一つのモデル都市とし、どの被災地域、ひいては日本のどの地域にも参考にしていただくことのできる、新しいまちのモデル(ソーシャルビジネス・タウンモデル)を検討するものです。
- ソーシャルビジネス・タウンモデルを検討する際に、「環境」、「福祉」、「教育」、「子育て」、「介護」など様々なテーマが想定されますが、今回は、「就労困難者の雇用」をテーマとしたまちのあり方に絞った検討を行います。

ワークショップの流れ

* 事前に参加者に陸前高田市の状況に関する資料をお渡しし、目を通してきていただきます。

- 主旨説明、SBN活動紹介、これまでの課題先進国会議での議論の内容の振り返り(SBN石井、町野)
- ホストのご紹介、課題先進国日本とは:熊野英介さん
- キーノートスピーチ I
 - ・ 成澤俊輔さん:22大雇用について
 - ・ 前田有香さん:デンマークの事例について
- ワークショップ I :誰もが働くことのできるまちはどうすれば実現できるか(フリーディスカッション)(35分)
ホストからの問題提起と2名のキーノートスピーチを受け、どうすれば、誰もが働くことのできるまちを実現することができるかについてのアイデア出しを行います。アイデアは付箋にまとめ、チームごとに発表し、意見を述べ合います。

休憩

- キーノートスピーチ II
 - ・ 河野通洋さん:陸前高田市の状況について
 - ・ 海津歩さん:スワンの事例と陸前高田での展開について
- ワークショップ II :誰もが働くことのできるまちの姿とは
キーノートスピーチ IIでの事例も参考にし、陸前高田市今泉地区をフィールドとして設定し、まちのコンセプトやまちのあり方に関する検討を行います。アイデアは付箋にまとめ、チームごとに発表し、意見を述べ合います。
- まとめ
ホストのコーディネートのもと、他スピーカーからのコメントをいただきながら、会場とのダイアログを行います。